

令和6年度印旛健康福祉センター運営協議会議事録

1 日 時 令和6年10月30日(水) 午後2時00分～午後3時00分

2 場 所 千葉県印旛合同庁舎 2階大会議室

3 出席者

(1) 委員 ※藤代健吾 小坂泰久 橋本浩 雨宮真吾 ※入江晶子
※川口絵未 栗原直也 ※伊藤ちかこ 高橋祐子 岩井泰憲
菅谷義範 ※栗原正彦 田中茂雄 ※根本由起子 ※青墳信之
※大藏文子 ※瀬脇徹夫 印宮昭夫 川崎美代子

※リモート参加
以上19名(敬省略)

(2) 代理 成田市地域医療政策課長補佐 ※成田美ゆき
佐倉市健康推進課長 ※辻口美佐枝
四街道市健康増進課長 ※塩田花子
八街市健康増進課長 池田宜史
富里市健康推進課長 ※山中昭

※リモート参加
以上5名(敬省略)

(3) 傍聴 0名

(4) 職員 センター長 久保秀一 副技監 塚田真澄
副センター長 石井洋美 副センター長 松田清香
成田支所長 舘野理恵 企画課長 高橋美由紀
地域保健課長 萬谷良子 地域福祉課長 安部文
生活保護課長 市川絵里 疾病対策課長 佐野恵美子
生活衛生課長 橋本亮 検査課長 小泉薫
食品機動監視課長 杉信暁子 監査指導課長 竹之内由紀美
疾病対策課技師 増山友香里

4 配布資料

- (1) 印旛健康福祉センター運営協議会次第
- (2) 印旛健康福祉センター運営協議会委員名簿

- (3) 出席者名簿
- (4) 座席表
- (5) 印旛保健所（健康福祉センター）について
- (6) 健康危機管理への対応
- (7) 印旛健康福祉センター運営協議会運営要領
- (8) 印旛健康福祉センター運営協議会傍聴要領
- (9) 令和 5 年度事業年報及び差し替えデータについて

5 会議の概要

(1) 開会（午後 2 時 00 分）

(2) 委員及び職員の紹介

委員名簿と座席表に代えて紹介した。

(3) 報告

委員 30 名中、委員 19 名の出席があり、当運営協議会運営要領第 8 条第 2 項に規定する定足数を満たし、会議が成立していることを報告した。

(4) 傍聴者の報告

傍聴者は 0 名であることを報告した。

(5) センター長あいさつ（久保センター長）

印旛保健所長の久保と申します。本日は、御参加いただき大変ありがとうございます。昨年に引き続き、私、保健所 2 年目という形になります。

この協議会は地域保健法で地域にふさわしい保健所作りを目指して地域の方からご意見を聞きましょうという形で作られております。皆様方には、地域にふさわしい印旛保健所という形で御提言、御意見いただけると大変ありがたいと思っております。

本日の流れですが、印旛保健所の事業概要を説明させていただいた後に、昨年度は新型コロナウイルス感染症の振り返りをさせていただきました。今回は、感染症ではなく、現時点での災害対応、災害医療或いは災害保健について説明をさせていただこうと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(6) 会長あいさつ（小坂委員）

酒々井町長の小坂でございます。本委員の皆様におかれましては、日頃から印旛管内の地域保健、地域福祉に多大なご尽力をいただいておりますことに対しまして、心より御礼を申し上げます。

さて、近年、令和 6 年度能登半島地震をはじめとする大規模災害により甚大な被害

が多く発生しております。このような中、災害時の保健対策を担う印旛保健所の役割は極めて大きいものと考えております。本日は、センターから最近の事業運営に関する説明がありますので、皆様には、センターのよりよい運営という観点から、積極的に御議論をいただきますよう、そしてまた御協力をお願いするところでございます。ひとつよろしく願いいたします。

(7) 議長

千葉県印旛健康福祉センター運営協議会運営要領第8条第1項により小坂会長が会議の議長として議事を進行した。

(8) 議事録署名人の選出

議長が委員に諮り、承認を得た後、大蔵委員、印宮委員を指名した

(9) 議題

久保センター長から印旛保健所（健康福祉センター）について説明を行った後、久保センター長及び増山技師により健康危機管理への対応の説明を行った。その後、委員からの質問等に対し回答を行った。

(10) 質疑応答及び意見

【小坂会長】

ただいまの事務局の説明に対しまして、御質問等がある方は挙手をお願いいたします。どうぞ、岩井委員。

【岩井委員】

私の方から一点質問させていただきたいんですけども、能登半島の災害現場に派遣という形で活動されてきたということですが、服薬の点で情報管理するのが難しかったという話もあったと思うんですが、近年のIT化だとか、そういうIT技術の進展によって期待されるような改善策は何かあるのか、もし教えてもらえたらお願いしたいと思います。

【小坂会長】

ただいまの御質問に対して事務局からお答えをお願いします。

【久保センター長】

どうもありがとうございます。

1つは、DMATも実施しているんですけども災害医療でも、カルテをどうしましょうかという話があって、それも共通化できないかという話があります。保健師の活動でも、例えばキントーン等を使って服薬管理とか、そういう面の情報を管理できないかという話を

聞いております。

【塚田副技監】

千葉県は、金沢の1.5次避難所と、2次避難所として先ほど説明申し上げた加賀市内の宿泊施設で、活動していました。最初はIT化がされていなく、紙ベースのため、かなり重複して避難している方にお話を伺ったことが多かったのですが、加賀市内の避難所においては、キントーンを使って統一化が図られていました。タブレットを使って、情報を上書きすることができて、どの支援者も、その避難者の方の最新の情報を得るということができておりましたので、とても役立ったということを聞いております。

【小坂会長】

どうぞ岩井委員。

【岩井委員】

ありがとうございます。多分今の話だとそのキントーンを活用した方法というのは、最初の情報と言ったらいいか、災害現場で避難されている、国民、市民の情報をその場で得て、それをその場でデータベース化して、例えば投薬履歴だとかを整理して、また共有させるという方法だと思うんですけども、もう1つ言うと、そもそも今進めてる国レベルでの投薬履歴だとか、そういう服薬情報等についての、データベース化というか共有化というのは、道筋はまだないという感じなんですかね。

【久保センター長】

まだ保健所レベルではその話は来ていません。

【岩井委員】

わかりました。ありがとうございます。

【小坂会長】

他に御質問等ございますでしょうか。どうぞ、副会長。

【菅谷副会長】

御説明いただき、ありがとうございます。いくつか質問させていただきます。まず保健所全体のことなんですけれども、保健所の統廃合が進みまして結構保健所の数が少なくなっております。今回新型コロナウイルス感染症、それから災害の発生もあるので、COVID-19の時は保健所の対応が大分御苦労されたと思うんですね。今後、保健所が増えてくということはないんですか、このまま維持されてくか、それとも減ってくことはまずないと思うんですけど見通しとしてはその辺いかがですか。

【久保センター長】

特にまだ県の方でその方針が出ていないんです。ただ1つ、コロナの振り返りをする
と、やはりある程度保健所1つ1つ、ある程度の規模はどうしても必要なのでその面ど
うするかというのは大きな課題だと考えております。

【菅谷副会長】

非常に地域にとって大事なことなので、これ以上減らされますと、大分色々な面で支障
が出てくると危惧をしております。次は、病院の立入検査なんですけど、2020年は0だっ
たんですけども、これは全くされていなかった、書面もされていなかったということ
で、こういう状況はやむを得ないと思うんですけども、ここで何か支障は起こったん
ですか。特に、立入検査が行われていなかったことで支障は起こりましたか。

【久保センター長】

その時、印旛保健所にいなかったのが印旛保健所がどうだったかは答えられないの
ですが、県全体としては大きな問題がなかったというように聞いております。

【菅谷副会長】

ありがとうございます。それからですね、結核のことなんですけれども、今結核を扱っ
てる病院がかなり少なくなっている。佐倉、印旛管内でも、今ほとんどないんですか。成
田、日赤はまだ持っているんですけど。日赤はもう無くなったんですけど。

【久保センター長】

日赤さんは結核患者さん、ケースバイケースで入れていただけてます。基本的に結核病
床がなくても、結核モデル病床がある場合入れられるということ、もう1つは緊急やむを
得ず入れていただけたということがあります。例えば、もう生命が危なくて動かさないよ
うな場合は当然そちらの病院にそのままいていただくという形になります。

【菅谷副会長】

他に管内で結核患者を受入れる病院はありますか。

【久保センター長】

日本医大北総病院さんが今モデル病床を持っております。

【菅谷副会長】

そうですか。それから、検査業務ですが、臨床検査のところで、H I V及び肝炎、性感
染症検査の他に、尿検査をされてるんですが、これは原爆被爆者の検診に特化したもので
すか、それとも一般的に他の検査も含めて尿検査としてやっている。括弧付きで、原爆被
爆者検診と書いてありましたので。

【久保センター長】

検査課課長が答えます。

【小泉課長】

被爆者健診に係る尿検査の実施となっております。

【菅谷副会長】

これは特化したものということですね。わかりました、ありがとうございます。それから、精神保健なんですけれども、この経過措置入院の経過が書いてあるんですけれども、去年も聞いたかもしれません。緊急の場合はどこまで対応できるか、これはある程度時間が経っての検査手順ということですかね、1日とか。

【久保センター長】

緊急の場合ですね、緊急措置診察1名のドクターでやっていただいて、ある一定の時間内に措置診察という形で、2名の医師にやっていただく形になります。

【菅谷副会長】

ありがとうございます。それから災害派遣の意義として先ほど、久保先生がお話になられたように、その地域の救助と経験をしてそれをフィードバックするという2つ、救助の方の手順は皆さん、きちっとされてると思うんですけれども。フィードバックの方なんですけど。なかなか災害訓練を大規模で実施することは難しいので、こういうところの経験が非常に大事なんですけど、フィードバックの方法はどういうふうな形でされてますでしょうか。例えば今日みたいにお話いただいたんですけど、それも1つの方法だと、その他にはいかがですか。

【久保センター長】

1つは県から多くの保健師が他にも派遣されていますので、県全体で保健師の報告会があります。あとは所に限っては、所内の課長会議で実際どうだったかという説明をしてもらってます。

【菅谷副会長】

例えば、佐倉市でも派遣されてるんだけどそれを一応庁内で共有してるという話がありますので、その辺はきちっと貴重な経験なので、ぜひフィードバックしていただければと。

それから今回、保健所さんの活動は、主に2次避難所ですね。そうすると慢性期の問題なんですけど、災害の場合は指揮系統が非常に大事で、慢性期の場合は割合きちっとで

きてるんですけど、急性期のときは、今回参加されなかったわけですね。

【久保センター長】

参加していません。

【菅谷副会長】

災害訓練の中でも、やはり急性期の指揮系統の問題が非常にありますので、久保先生、災害について色々検討していただけてますが、その辺の命令系統の確立も大事かと思います。やはり各市町が災害拠点本部を作ったというのがまず1つの方法。それから県としては、県から各種、保健所とか健康管理センターで災害対策本部を作ること。その間の連携を、割合密にしないといけないので、スムーズに、やっていただけると非常にありがたいなと思いますのでよろしくお願いします。以上です。

【小坂会長】

それではZoomで御出席の方ですね、ご質問がありますので、瀬脇委員、御発言をお願いいたします。

【瀬脇委員】

千葉県獣医師会印旛支部長の瀬脇でございます。先ほどの災害時の避難所の衛生管理について、なかなかこういう場に、我々は飼育動物の臨床家ですけれども呼ばれる機会が少ないので、この場でちょっとお願いしたいと思います。

最近、飼育動物が、人間の子供より数が多いと報道もあります。当然避難するときには、一緒に避難したい方も多いと思います。またそれに伴って、困難な場合に避難をためらうようなことがある。そしてそのために亡くなったというふうなニュースもありました。それに関してはやはり、その避難所の衛生管理などが適切に行われているかどうかというのが、かなり問題な点だとは思っております。その辺に関しては、やはり我々のような動物の臨床家がノウハウを持っておりますので、もっと利用していただきたい。なかなかこういう場に、呼ばれないので防災会議もね、出席もなかなかかないませんし、いざ事が起こってから何か動くようなことがあるので、できればその計画の段階で獣医師の臨床家の集まりである獣医師会の各地域の支部などを、ぜひ利用していただいてその計画の段階から集まりに入れていただけると安心して避難ができる。

また動物を飼っていない方も、嫌々、最近の風潮だから、しょうがないかと受け入れるのではなくて、きちんと安全に清潔に動物を飼っている方、それから飼っていない方が、それぞれ安心して清潔に安全に避難ができるというふうなそういうその避難所の運営、設計を獣医師会の方とも連携をしていただいて、ぜひもっと利用してもらいたいなと思っております。ですので、この場でちょっとお願いをしたいと思いました。

この会議はまたそういう会議じゃないけれども、先程もその辺のところは、全く触れられておりませんでしたので、実際問題現場ではそういうご苦勞がおそらくあると思いま

す。千葉県もいつああいうことになるかわかりませんので、ぜひその辺のところをお願いしたいと思ひまして、我々は準備はあります。ぜひ、声かけていただいて一緒にやろうということであれば、動けますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【久保センター長】

御協力いただくこと、大変ありがとうございます。全国的に避難所における動物管理、どうやっていきたいと思いますかということは大きなテーマだと思っています。今後もどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

【小坂会長】

他に御質問等ございますでしょうか。

【栗原委員】

すいません、よろしいでしょうか。印旛郡市歯科医師会の栗原と申します。獣医師会の先生からお話があったんですが、関連として災害時の、いわゆる避難所の件なのですが、事前に防災についての歯科医師会として協議会を持ちたいと思ひまして、12月5日に、各市町の担当者に連絡をさせていただいています。ぜひ、防災、避難所のところの、衛生関連っていうのを再確認いただくのと、それから事前の準備をきちんとするために、各担当の御出席をいただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。以上でございます。

【小坂会長】

ただいまのは御連絡ということでよろしいですかね。

【栗原委員】

はい。出席をいただくように要望でございます。よろしくお願い致します。

【小坂会長】

はい、わかりました。その他ございますか。ないようでしたら、以上で質疑を終了いたします。御苦勞様です。

【小坂会長】

次に、その他として何かございますか。事務局からの伝達事項等。

【久保センター長】

事務局の方は特にありません。

【小坂会長】

はい、それでは本日の審議をこれで終了いたしまして、進行を司会にお返しをすること

といたします。会議の円滑な進行にご協力いただきまして、大変ありがとうございました。

【石井副センター長】

小坂会長、ありがとうございました。委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。本日の議事録については、後日、議事録署名人にご確認をいただいた後、委員の皆様に送付させていただきます。以上をもちまして、令和6年度千葉県印旛健康福祉センター運営協議会を終了いたします。本日はありがとうございました。

6 閉会（午後3時00分）